



▲園部小学校での南丹パートナーズスクール



▲南丹パートナーズスクールで作られた木彫刻（園部第二小学校）



▲南丹パートナーズスクールで作られた木箱（園部小学校）

四十五点とともに、工芸を始められたきっかけや、工芸に対する作者の思いなどを紹介しました。丹精込めて作られた一つ一つの作品を間近かで見ることができ、工芸の素晴らしさが感じられました。工芸作家の皆さんが長い年月をかけて培ってこられた匠の技に、ものづくりのまち南丹市の魅力が会場内にあふれていました。

### 伝統工芸の人材育成を担う

#### —京都伝統工芸大学校—

「ものづくり」のまち南丹市を支える、京都伝統工芸大

学校は「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づく全国で初の施設として、平成七年に園部町小山東町に設立されました。

同大学校では、陶芸、木工芸、金属工芸など、京都の伝統産業で活躍する現役の伝統工芸士が、教授や講師として直接指導され、多くの卒業生が、伝統産業の後継者として活躍されています。

また、同大学校では、地域の小学生が工芸にふれる機会として、府南丹教育局が主催する「南丹パートナーズスクール」に協力されており、大学の生徒が木箱作り、木彫刻の講師として市立園部小学校・園部第二小学校の児童たちにもものづくりの楽しさを伝えました。完成した作品は南丹美術工芸教育展で展示されました。

また、南丹工芸文化祭には同大学校の学生の作品も展示され、その高い技術力が披露されました。

### 二十一世紀の

#### ものづくりの拠点

#### —京都新光悦村—

江戸時代初期に、芸術家の「本阿弥光悦」によって京都洛北・鷹ヶ峰に形成された職

### 南丹工芸文化祭来場者のアンケートより

南丹工芸文化祭へ来場いただいた方にアンケートを書いていただきました。その一部を紹介します。

写真入りで作家紹介がしてあったことで、こんなにも作家がいるのかと身近に感じられた。

（四十歳代 女性）

各町で活動されていることは知っていましたが、作品を拝見したことが無かったので、またその地へ行ってみたい気持ちもします。

（五十歳代 女性）

工芸を南丹市から発信しようという思いと、ものづくりの楽しさが伝わってきました。

（五十歳代 男性）

子どもたちは、なかなか大人の作品展に足を運ぶことがないので、自分たちの作品を見て、さらに素晴らしい作品を見ることができるとは良いことだと思います。

（五十歳代 女性）

「僕もこんな作品、作ってみたい！」と意欲を見せていました。よい機会になったと思います。

（三十歳代 女性）

子どもたちが普段なかなか知り得ない工芸文化に触れ、ものづくりへの興味がわいているように感じた。

（？歳代 女性）

本物を見る機会が少ない中、近いところで開催されているのでよかったですと思います。

（四十歳代 女性）